「自分の考えを豊かに表現し、共に学び合う子どもの育成」

~ユニバーサルデザインの視点を取り入れた指導の工夫を通して~ ~(3年計画の1年次)

校長 古戸美登子

1 研究主題について

本校の教育目標は「たくましく生きる子」である。めざす児童像「夢や志の実現に向かって学び続ける人間性豊かな子ども」の育成に向けて教育活動に取り組んでいる。

この具現のためには、児童が主体的、創造的に学習に取り組む資質や能力、態度を育てるとともに、 積極的に他者と関わりをもち、学び合いながら問題を解決しようとする意欲を高めていく必要がある。 3年にわたり、国語科を中心に、本校における主体的に学び合う子どもの姿について共通理解を図 るとともに、児童に問いをもたせるための発問、学びを広げ深めるための学び合いのさせ方、活用に つなげるための振り返りについて、授業研究に取り組んできた。

その結果、

- (1) 判断のずれを生み出す発問をしたり効果的な導入の仕掛けをしたりすることで、主体的に問題を解決しようとする意欲が高まった。
- (2) 立場を明確にすることで、自分なりの考えをもって深く考えるようになった。
- (3) 活用場面を設定することで、今までの学習を生かしながら自分の力で問題を解決することができるようになってきた。また、単元以外でも活用して学習を進めることができるようになった。 一方で
- (1) 自分の考えをもって互いの考えを交流することはできるようになったが、友だちの考えを受けて自分なりに考えをより深め広げたり、相手の考えについて意見を述べたりできるようにする必要がある
- (2) イメージはできるが、それを言語化することを苦手に思う児童が多いため、表現力を身に付けさせることが必要である。

という課題が挙げられた。

これらの成果と課題を踏まえ、今年度は国語科を中心に、自分の考えを表現しながら児童が主体的に学び合い、互いの考えを広げ深める授業づくりを目指すとともに、他教科でも学んだことを生かせることができる児童を育てたいと考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

自分の考えを豊かに表現し、共に学び合う子どもの育成をする授業のあり方を国語科における授業 実践を通して明らかにする。

3 研究仮説

自分の考えが相手に伝わるような話し方の指導をするとともに、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の工夫をすることによって、自分の考えを豊かに表現し、共に学ぶ子どもの育成をすることができる。

4 研究内容

(1) ユニバーサルデザインの視点を取り入れた指導の工夫

ア 「問い」や思考する必要感をもたせる手立て

- (2) 児童同士が考えを深め広げるための工夫
 - ア 話合いのもたせ方の工夫(話合い場面設定、ペア、グループ、全体)
 - イ 説明のさせ方の工夫

(図や資料を使って説明、 用語 [既習事項、教科の専門用語、本文からの引用など] を使って説明、 理由や根拠を明確にして説明)

5 研究の経過

(1)授業仮説に基づく授業研究

月	日	学年・題材名・授業者
9	2 7	第1回授業研究(6学年) 国語 作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう 「やまなし『資料:イーハトーヴの夢』」 教諭 山口 義始
1 1	2 7	第2回授業研究(3学年) 国語 れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう 「すがたをかえる大豆」 教諭 粟津 綾子

(2)一般研修等

月	日	内容
6	2 8	不審者対応について (演習) 講師 八戸警察署生活安全課の方々
8	2 1	AED の演習 講師 八戸市消防署桔梗野分遣所の方々
1 1	1	特別な配慮を要する児童生徒の対応の仕方や支援の在り方について 講師 八戸市教育委員会こども支援センター 主任指導主事 横沢 吉則 先生
1	1 2	1人1台端末の活用について (演習)講師 本校教諭 安井 康智本校教諭 山口 義始

6 研究の成果

- (1) ユニバーサルデザインを意識して授業を組み立てたことは、学習課題に対して考える手立てとして有効であり、どの児童にも分かりやすかった。
- (2) 授業における「しかけ」を取り入れたことは、児童が必要感をもって意欲的に問題解決に臨むことができた。
- (3) 話合いの場面を設定したことは、様々な考え方に触れ自分の考えを広めたり深めたりすることに繋がった。

7 研究の課題

- (1) 自分の考えをもつだけではなく、豊かに表現させるための具体的な工夫。
- (2) 児童なりの考えをもたせる工夫。
- (3) 意見交流の活動のさせ方の工夫。

(記入者 金田 光子)